

[相馬市 農地復旧復興（純国産大豆）プロジェクト事業]
津波と風評被害から相馬市の農地・農業を大豆で再生
「農業機械交付式」が開催されました

6月1日、福島県相馬市で農業機械交付式が開催されました。これは公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富 慶二、以下ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第4次助成先の一つである相馬市が、助成により各種農業機械を購入し、大豆の生産で相馬地域の農業再生を目指す飯豊、岩子、南飯淵の3地区の農業法人を支援する事業です。

颯爽と並んだ計18台のトラクターを前に立谷市長は「この機械で相馬市の農業を再生しましょう」と挨拶。相馬市では、津波による塩害や原発事故の風評被害により、多くの農家が農地を手離しはじめています。そこで3地区の有志がそれぞれ農業法人を立ち上げ、各集落の水田や畑をまとめて大豆畑へと再生することにしました。大豆は稲に比べて設備や人手が少なくても耕作でき、また塩害にも強い作物です。すでに放射能は、自然放射能の数値まで下がっていますが、万全を期して2年間は収穫した大豆をバイオ燃料の原料にします。大豆を植えた後の土地は、特別な菌が生まれることで豊かに変わります。将来はこの土地で育てた大豆を、昔からの相馬伝統の醸造技術により豆腐や豆乳、味噌、醤油などに加工、販売していく計画です。



ずらりと並んだ18台のトラクター。3地区の農業法人に以下の農業機械が交付されました。

- 合同会社飯豊ファーム：
トラクター10台、コンバイン2台、ブームスプレーヤー3台、その他アタッチメント19種
- 合同会社岩子ファーム：
トラクター7台、コンバイン2台、その他アタッチメント16種、大豆選別機3種
- 合同会社アグリフード飯淵：
トラクター1台、コンバイン1台、その他アタッチメント8種



立谷市長（写真中央）と当財団よりトラクターのゴールドキーが農業法人の代表者（写真左）へ



トラクターを前に農業生産者が記念撮影